

07 福泉産業株式会社

小ロット製品の生産効率を上げる 充填機械の導入



工場を案内してくれた瀬尾取締役と導入機械

会社概要

- 社 名：福泉産業株式会社
- 代表者名：代表取締役社長 佐藤順仁
- 所在地：〒417-0826 富士市中里150-1
- 取材地：同所在地
- 設立年月：昭和15年12月
- 業 種：食料品製造業
- 資本金：51,000千円
- TEL：0545-34-0802
- URL：http://fukuizumi.jp/



取り組みの経緯



一部商品の原材料となる地元で採れた橙

【地元で愛される老舗企業 販路拡大に向けた挑戦】

富士市中里に事業所を構える福泉産業株式会社は、静岡県内では言わずと知れた老舗食料品メーカーである。創業から70年を超える同社は、みりん風調味料を全国に先駆けて開発・発売をした液体調味料のパイオニアでもある。

同社の特徴としては、大手メーカーの大量ライン生産に対し、小回りの利くレイアウトによる小ロット生産にも対応している点だ。地元の記念品などのニッチな需要も取り込むことができ、競争力の高さを備えている。一方で、同社が手掛ける調味料は料理における基礎調味料となるため、付加価値を付与し、商品価値を高めることが難しい。そのため、原材料の高騰などの煽りを受けやすく、常にリスクを抱えている状況である。

そのような背景を踏まえ、同社ではさらなる販路拡大を模索する必要があると、従来の小ロット生産の体制を拡充することで、スポット受注にも対応した小回りの利くラインづくりに向けて検討を開始した。現状の生産ラインを改良できれば、型替え時間の短縮に加え、作業者の省力化も期待できた。

事業の概要

長年、地域に根ざして事業を展開し、コマーシャルでもおなじみの同社。クライアントの意向に応えるべく、更なる小ロット生産体制構築の一步として、今回新たに小ロット対応の充填機械を導入した。生産効率の向上を果たした後も、同社では試行錯誤を行いながら、新たな販路開拓に挑戦している。

取り組みの内容



導入された小ロット充填機は、生産効率の向上に繋がった

【多種多様な容器に対応できる 生産ラインの効果的な活用を検討】

事業に取り組むにあたって、同社で課題とされたのは小ロットラインと常時製造している製品との住み分けであった。同社の場合、小ロット生産においてもある程度生産量が見込める商品については、型交換を行い同一ラインで製造する場合がある。したがって、生産計画についてもタイトとなるほか、実際の生産についても通常製品の製造を圧迫するケースも発生していた。加えて、型交換の時間やその人員を鑑みると、生産性が著しく低下しているのは明白であった。

そこで、同社が導入を考えたのが小ロット生産に対応したオートメーションの充填機械であった。型交換がなく段取り時間を短くすることが可能であるほか、直線短距離のラインとなるため、メンテナンス等についても従来と比べ簡易となる。また、課題とされていたラインの住み分けについても、小ロット専用ラインとして稼働させることで、工場全体の生産効率の向上に寄与することは十分に想定された。

結 果



みりん風調味料をはじめとしバラエティに富んだ商品づくりを行っている

【新体制での生産スタート 潜在ニーズへの提案にも着手】

取り組みの結果、同社の生産性は大きく変化した。1.8ℓ以下の小ロット生産については、容器サイズに応じてそれぞれ1.2倍～1.7倍程度の生産量の増加が確認できたほか、従来の型換え時間は3分の1に短縮、人員も2人から1人で足りるようになった。加えて、小ロット商品専用の製造ラインができたことにより、従来容器サイズの小ロット充填がコスト的に難しかった商品についても、対応が可能となり、商品バリエーションの増加に繋がった。

現在同社では、地元農家から提供された橙を原料とした味付きポン酢の製造も手掛けている。

取材に応じた瀬尾取締役は、「小ロット製造ラインができたおかげで、試験的な商品開発にも取り組む余裕が生まれました。今後は、地元の特産を活用した商品開発を中心に、ニッチな需要も取り組めると考えています。」と話す。

客先ではPB商品を求める声も多いほか、OEM商品の試作開発といった、今後より一層の小ロット生産が見込まれている。地元で根付く老舗メーカーに期待させる役割は大きい。